

太陽エネルギーシステムフィールドテスト事業①

事業の目的

太陽光発電の2010年度導入目標量（118万k l）及び太陽熱利用の2010年度導入目標量（90万k l）を達成するために、新技術を活用したシステム等を導入し、その有効性を検証する。

事業の概要

○太陽光発電

太陽光発電システム等を実際に導入し、性能・耐久性・安全性・経済性の観点から設置・施工方法の最適化と標準化を図る。

1. 新型モジュール採用型
2. 建材一体型
3. 新制御方式適用型
4. 効率向上追求型

○太陽熱利用

太陽熱利用の適用拡大とコスト低減のために、太陽熱利用システムを実際に導入し、性能・耐久性・安全性・経済性の観点から設置・施工方法の最適化と標準化を図る。また、更に採択の際にはデザイン性を重視することで、消費者にとって魅力的なシステムの構築を目指す。

1. 新分野拡大型
2. 最適化・標準化推進型
3. 魅力的デザイン適用型
4. 新技術適用型

事業計画

（事業年度）

平成19年度～平成26年度

（予算規模）

平成19年度概算要求額：89.6億円

全体予定額：364.5億円

本事業では、設備の設置後の4年間に渡って実証データを収集。したがって、平成23年度～平成26年度はデータの収集のみ行う予定。

事業スキーム



実施機関：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

負担率：NEDOが事業費の1/2を負担。

戦略等における位置付け

平成18年3月の第53回総合科学技術会議において決定された分野別推進戦略において、「太陽光発電及び太陽熱利用の更なる高効率化、低コスト化等を目指す技術開発、実証試験等」を重要な研究開発課題として位置付けている。

太陽エネルギーシステムフィールドテスト事業②

～太陽光発電～

『太陽光発電新技術フィールドテスト事業』における対象分野(平成18年度:118億円)

1. 新型モジュール採用型

・従来型より性能及び機能等が向上した太陽電池モジュールや新素材セルを適用した次世代型太陽電池モジュールを採用したシステム

2. 建材一体型

・屋根材・建築材料としての機能を持つ太陽電池モジュールを採用したシステム

3. 新制御方式適用型

・災害対応またはピークカットを目的とした蓄電装置を併設したシステム

・融雪機能及びストリング電圧調整機能等、従来型より性能及び機能等が向上した周辺機器を採用したシステム

4. 効率向上追求型

・標準型システムをベースに設計、工法及び使用機器等に検討を加え、システム効率の向上を図ったシステム

○設置事例1(壁材一体型)



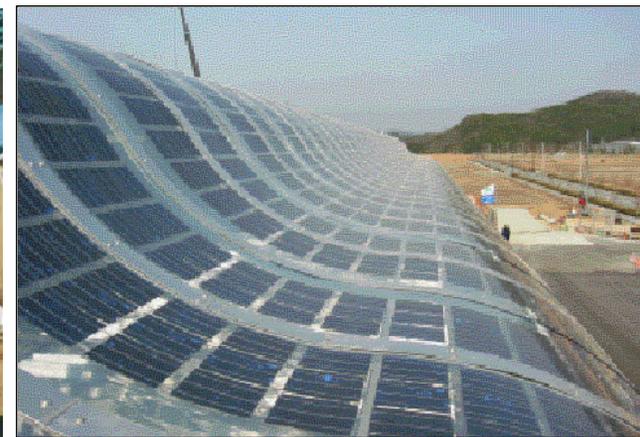
設置場所: 埼玉県戸田市
出力: 10kW
太陽電池: アモルファスシリコン

○設置事例2(屋根材一体型)



設置場所: 愛知県長久手町
出力: 10kW
太陽電池: 多結晶型シリコン

○設置事例3(曲面設置)



設置場所: 兵庫県たつの市
出力: 20kW
太陽電池: 多結晶型シリコン